

正代直也

(2014年東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科卒業)



令和2年は、正代にとって飛躍の1年となった。

1月の初場所は、平幕で徳勝龍と共に優勝争いにかみ、13勝(準優勝)。7月場所では、優勝した照ノ富士を破る活躍を見せて11勝。

関脇で臨んだ9月場所は、優勝戦線を引っ張り、13勝2敗で初優勝を飾る。東京農大相撲部出身者では、初めての幕内最高優勝。さらに、出身の熊本県からも(優勝制度制定以降)初の優勝で、喜びが広がった。

さらに、場所後には、大関昇進が決定する。「謹んでお受けします。大関の座に恥じぬよう、至誠一貫の精神で相撲道に邁進して参ります」

「最後まで誠意を貫き通す」という意味を持つ、「至誠一貫」を口上に入れたのは、正代の相撲道を意味するものだという。

そして、10月、正代は久しぶりに、地元・熊本に帰省した。コロナ禍以前は、場所後の休みを利用して、たびたび帰省していたのだが、久々の帰省が、「凱旋」になるとは予想だになかったことだ。熊本県庁、宇土市役所、母校・熊本農高などに優勝の報告を終えて、宇土市内の実家へ。

実家では、祖母、両親、姉、弟が正代を迎えた。90歳を超える祖母は、ちょっとした有名人だ。名前を「正代正代(しょうだい・まさよ)」さんという。場所中はテレビで正代の相撲を応援することが楽しみで、この日は孫との再会を心待ちにしていた。

飛躍の1年だった令和2年。
今年は「優勝争いに加わりたい」

家族で囲んだのは、正代の好物、母が作った甘めのカレーライス。

「家族でゴハンを食べて、実家のベッドに横になった時、(9月場所などの)疲れがドーッと出てきて…。『実家のベッドは柔らかいなあ』と思いながら、ゆっくり休むことができました(笑)」

つかの間の休息を経て、正代は戦いの場に戻った。

新大関として臨んだ11月場所は、際どい相撲が続いた。初日、新鋭・若隆景を土俵際で辛くも突き落として勝利、3日目も元大関・高安を初日同様の突き落として、なんとか勝利をもぎ取って3連勝。ところが、この相撲で左足首を負傷し、5日目から力士生活初の休場に追い込まれてしまう。

新大関にして、ピンチに立たされた正代だが、表情に暗さはない。

「(新大関の)11月場所は、精神的に余裕がなかったと思う。緊張で体が思うように動かなくて、ギリギリの相撲を取ってしまった。それがケガにつながってしまった。反省しています」と正代。「令和3年は、まずはケガをしないこと。カド番ですから、早く脱出することに全力で挑みます。もちろん、チャンスがあれば、優勝争いにも加わりたいですね」(2020年12月28日)

堂々とした「相撲」を期待したい。

(ノンフィクションライター 武田 葉月)

東京農業大学第三高等学校 陸上部

▶ 吉田祐也選手(2015年卒)第74回福岡国際マラソン(2020年12月6日)優勝!
(日本歴代9位の2時間7分5秒)

▶ 東農大三高 全国高校駅伝競走大会埼玉県予選準優勝!



Harvest

学校法人東京農業大学ニュース

発行日: 2021年(令和3年)1月29日

発行: 学校法人東京農業大学 経営企画部

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 ☎03-5477-2300

周東佑京 東京農業大学凱旋!
東京農大二高 陸上部、躍進。
大関正代 覚醒!



周東佑京

(1996年2月10日群馬県生まれ。2014年東京農業大学第二高等学校卒業。2018年東京農業大学生物産業学部卒業)

ソフトバンク4年連続日本一 50盗塁マークで 育成出身初の「盗塁王」 13試合連続盗塁の 世界記録を樹立

2020年シーズン終盤の10月29日、ソフトバンクローテ戦。1番バッターの周東佑京は、初回到内野安打で出塁すると、2盗にチャレンジし、成功。これで、「世界の盗塁王」こと福本豊さん(阪急)の記録(連続11試合盗塁)を抜き、日本新記録を樹立。

勢いは止まらない。翌30日、7回に出塁した周東は2盗に挑む。1969年、メジャーリーグで記録された連続12試合盗塁記録を上回る13試合連続を決めて、世界記録を達成。さらに、レギュラーシーズン最終戦では、3回に区切りの50盗塁目を決めるなど、ソフトバンクのリーグ優勝に大いに貢献。初の盗塁王にも輝いた「令和のスーパーカー」周東は、一躍時の人となった。

野球を始めたのは、栃木県で育った小学2年生の時。中学時代は、地元の硬式野球クラブに所属して、11年、東京農大二高に進んだ。主将として群馬大会を戦うも、チームは決勝で敗れ、甲子園出場はならなかった。東京農大生物産業学部進学後は、オホーツク硬式野球部で1年生からレギュラーとして活躍。北海道六大学リーグでは、ベストナインにも選出された。

夢はあくまで、プロ野球選手。17年秋のドラフトで、ソフトバンクから育成2巡目で指名を受けた周東は、プロ入り。1年目、ウエスタンリーグで90試合に出場。リーグ最多の27盗塁を記録し、2年目で支配下選手に登録された。一軍で15盗塁を決めたことが評価され、20年の爆発的な活躍につながっていく。

「育成(選手)だった頃の気持ちを、ずっと忘れないようにしたい」

世界記録を樹立してもなお、こうした謙虚な姿勢を見せるところも、周東の魅力なのだろう。



盗塁については他の選手よりも 勉強している自信があります



——2020年はどんな1年でしたか？

周東 コロナの影響で開幕が遅れ、練習したくても制限があり、いざ開幕したら日程も詰まって…大変な1年だったというのが正直なところ。でも多くの人ののおかげで僕はプレイすることができました。とても感謝しています。チームの4年連続日本一、個人的には盗塁王になりましたが、達成感よりは、「もう少し、やれたのではないか」と思っています。完璧主義者ではないのですが、自分にはこうなりたいという理想があり、今はまだまだだと考えています。

——普段心がけていることは？

周東 1日1日をしっかりやることです。練習でも試合でも、翌日に余力を残さないようにしています。

——盗塁を多く決められる秘訣は？

周東 センスです(笑)。もちろん冗談です。常にいろいろなことを細かく見て、考えるようにしています。ピッチャーが次に投げる球種を考え、キャッチャーの動きを見ます。ベンチからも見ますし、試合前は映像も見ます。盗塁については他の選手よりも、勉強している自信があります。走り出すタ

イミングはいつも同じです。シーズン後半は、いろいろ試したりしていますが。当然アウトにはなりたくないですが、ベンチ(監督、コーチ)からは、アウトになってもいいからチャレンジしろと言われています。

——挫折や壁にぶつかった時はどうしますか？

周東 これまでに野球をやめたいと思ったことは何度もありますが、今はプロとして、仕事として、自分のためよりも応援してくれる人のためにプレイしています。周りの人に恩返しするために頑張ろうという気持ちで、これからも乗り越えていきたいと思います。あとは日頃から、「自分に合う、合わない」を判断することでしょうか。アドバイスはまず試してみますが、自分に合わないと思ったら、その段階で切り替えます。自分で判断することが大切だと思っています。——来シーズンの目標と夢を教えてください。

周東 2020年はシーズン途中からのスタメン入りでしたので、来年は最初からレギュラーとして活躍し、2年連続盗塁王になりたいと思います。夢は皆さんの記憶に残る選手になることです。

(2020年12月15日東京農業大学にて)

人間的に成長し、技術も向上

彼の走りを初めて見て、その速さに驚いたのは高校1年の秋。3年になってからは毎週のように北海道から試合を見に行き、彼には「プロになれるからオホーツクに来いよ」と声をかけました。大学時代は、走りに磨きをかけつつ、大学レベル上位のバッティングはできていて、キャプテンも務めていました。それでもプロ入りが決まった時は、課題はバッティングだと話をしました。

2019年冬のキャンプで相当練習している姿を見て、これは一皮むけるかと思いました。そうしたらオープン戦

でいきなりホームランを打ち、あれで波に乗れたと思います。ソフトバンクは打てないとレギュラー入りできないチームです。盗塁するにはまず出塁が必要なので、バッティングが向上したのは間違いないと思います。

ここ数年、考え方や受け答えなど人間的に大人になりました。私は、人間的に成長しないと技術は向上しないと学生に言いますが、彼は成長した典型です。盗塁王や世界記録については、「やったな！ すごえな！」と、私もひとりのファンとして喜んでいました。

(2020年12月17日東京農業大学にて)



樋越 勉

1957年生まれ。東京農業大学卒業後、日比谷花壇に就職。その後、野球指導者へ転向。1990～2017年11月東京農業大学北海道オホーツク硬式野球部監督。2017年12月～東京農業大学硬式野球部監督。

東京農大凱旋！

青春真っ只中! 未来へ輝け!



全国高校駅伝競走大会出場!

関東高校駅伝 15年ぶり 優勝!

11月21日にカンセキスタジアムとちぎにおいて行われた令和2(2020)年度男子第73回関東高等学校駅伝競走大会に、陸上競技部(長距離)が出場し、2時間3分58秒の記録で15年ぶりに優勝を果たしました。その結果、12月20日に京都で行われた全国高等学校駅伝競走大会に出場し、健闘しましたが11位の結果となりました。



【出場選手】

1区 内山 喜宝(3年) 2区 大田和 一斗(3年)
3区 北村 勇貴(3年) 4区 分須 尊紀(3年)
5区 石田 洸介(3年) 6区 池原 悠月(3年)
7区 板垣 俊佑(3年)

高校生活をサポートする 学生寮が完成

2020年4月に鶴陵舎(男子寮・定員60名)がスタートしました。学校から自転車でおおよそ7分の所にあり、全室冷暖房、Wi-Fiが完備されています。いつでも利用可能な浴室や研修室、また栄養管理士のもと提供された食事により、アスリートとしての体調管理は万全です。遠方から本校の指定強化クラブに入学する生徒を中心に学業と部活動等に励み、充実した寮生活が過ごせるように整備されています。



男子5000mにて2度の日本高校新記録樹立

石田 洸介(3年生)



中学時代に好記録を残して、高校に入学したので、うまくいくだろうと思っていましたが、2年生の駅伝まではまったくいい結果が残せず、本当に苦しい日々が続きました。プレッシャーもありましたし、自分に期待しすぎて、それが焦りにつながりました。でもその苦しさを乗り越えてここにいるので、今は苦しかった時期を乗り越

えた自分に感謝したいと思います。競技面での自分の強みは、負けず嫌いなところ。あとは集中力を持って練習も試合も臨めることも良さだと思います。一方、時々ネガティブに考えてしまうこともあります。将来の夢は、オリンピックや世界陸上で世界の選手と戦い、日本陸上界を盛り上げ、長距離のレベルを上げていくことです。

全国高校陸上競技大会3000mSC1位

分須 尊紀(3年生)



自分の強みは地道に努力するところです。3年目に全国高校陸上競技大会3000m SC(障害)で1位という結果を出すことができました。優勝だけを狙っていたので、とてもうれしいです。1~2年の時は貧血や故障が多くありましたが、そんな状況でもコツコツと練習を続けてきました。キャプテンを務めています、今のチーム状態

はとてもいいと思います。もともと食事に気を使うタイプなので新しくできた寮はとても満足しています。今では自分の家のように過ごしています。将来は、大学卒業後に実業団には入らず、教師になりたいと考えています。陸上を教える側として、自分がこれまで経験したことを生かしていきたいと思っています。

日本陸上競技選手権大会100mファイナリスト

柳田 大輝(2年生)



日本選手権は、数年前までテレビで見ただけの存在でした。その日本選手権の決勝という舞台に立ち、緊張はあったものの、楽しめました。良い経験になったと思います。昨年、初めて経験した冬季練習が桁違いに辛かったのですが、大きな怪我をすることなく過ごせたのが大きかったと思います。

自分の強みはオンオフの切り替えが

できることです。試合では緊張はしますが、ダメだったらどうしようという緊張ではなく、楽しみだからこそのいい緊張感を持っています。反面、一回ハズしてしまうとズルズルいってしまうので、小さな失敗からいかに立て直すが課題です。東京2020の代表争いに加わりたと思っています。その次の世界選手権やオリンピックも狙っています。

山下 学

男子ホッケー
日本代表
キャプテン

世界のトップ10と、大きな差はない

今年の夏から秋にかけてドイツのチームでプレーしましたが、ヨーロッパのトップチームと試合ができたことはいい刺激になりました。ホッケー男子日本代表は2018年のアジア大会で優勝することができましたが、世界のトップ10と呼ばれる国に、こと技術面においては負けていないと思っているんです。



大学時代の山下選手（右）

1989年2月4日生まれ。富山県出身。2011年東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科卒業。2009年よりホッケー男子日本代表（サムライジャパン）で活躍。2018年アジア大会（ジャカルタ）では初優勝の快挙。2020年夏～秋はドイツ1部ニュルンベルクでプレーした。

です。差があるのは、決定力。今すぐにトップ10に追いつくのは難しいかもしれませんが、「チームとしてしっかり守ること」を強みにしていけば、それらの国にもっと勝てると思います。

今、代表のキャプテンを務めています。小・中・高・大学・社会人を振り返ってみると、エリートではなかったと思います。東京農大での4年間で最も成長できた期間です。吉田コーチ（当時）には大変お世話になりました。

東京五輪が延期になったことは、準備期間が増えたと前向きにとらえています。世界のトップ10とは決定力に差があると言いましたが、もうひとつ、慣れることが大事だと思っています。強豪国は世界大会への出場機会が多くあり、ハイレベルな経験を積むことができます。日本はそのような機会が少ないので、差が開いてしまう。その点、東京五輪はホスト国ですから、練習試合が多く組まれると予想できます。練習試合ではいくら負けてもいいので、本番までに「慣れ」ておきたいですね。

自分のプレーの持ち味は、身体を張ってぶつかることです。年齢的に今度が最初で最後の五輪になるかもしれませんが、正直その先もプレーしたいですし、1年延期になったお



かげで、次の五輪が3年後にやってくるので（笑）。選考会をクリアしたら、最終ゴールを金メダルに据えて、パフォーマンスを向上させていきたいと思っています。（2020年11月5日）

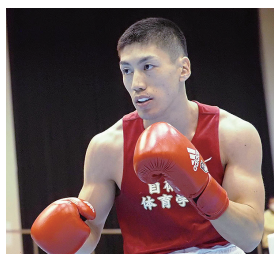
オリンピックへ、飛躍！

成松 大介

男子ボクシング
ライト級
出場予定

座右の銘は『果報は寝て待て』です

子どもの頃は人見知りが激しくて、おとなしい性格でした。中学校までサッカーやバスケット、ソフトテニスをしていましたが、どれもコミュニケーションを必要とするスポーツで人見知りだった私には向いてませんでした。熊本農業高校に入学して、これまでやったことのないスポーツをやったかったのでボクシング部に入部しましたが、2年生の時に他校の同級生に負けて初めて悔しさを覚え「このまま終わったら、ダサいな」って。そこから真剣に打ち込んで、3年生の



大学時代の成松選手

1989年12月14日生まれ。熊本県出身。2012年東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科卒業後、自衛隊体育学校に所属。2016年リオ五輪出場。2018年アジア大会（ジャカルタ）ではライトウェルター級で銅メダルを獲得。全日本選手権9回優勝。2019年日本ボクシング連盟より2018年度アマチュア部門最優秀選手賞の表彰を受ける。



国民体育大会で優勝することができました。

何校か推薦が来た中で自分に一番合っていると思い、東京農大に入学しました。大学生活は部活ばかりで一般的な大学生活とは違うような気もしますが、寮生活や日々の練習は良い思い出です。大学時代からオリンピック出場が目標だったので、リオ五輪への出場が決まった瞬間は、諦めずに挑戦し続けて良かったなと思いました。リオ五輪では2回戦で負けましたが、オリンピックを大きく見すぎってしまったからいけ

なかったのだと思っています。

東京五輪では自然体で試合に臨めるよう、リオ五輪の経験を活かしたいです。今年で31歳になり、ボクシングを始めてから15年経ちますが、長年代表で続けられたのはひとりで考える時間を大切にしてきたからではないかと思っています。まずはひとりでひたすらボクシングのことを考えて、それを練習でトライしたり、コーチと議論したり、その積み重ねでここまで長くやってこれたんだと思います。そして監督コーチだけではなく、周りのサポート、応援してくれる人達がいたからこそ今の自分がいるのです。感謝しております。

この歳になって思うのは、環境は自分で作り出すものだと思います。自衛隊体育学校は施設がとても充実しているのですが、充実していないと練習をやらないのかということではない。練習メニューについても、こんな練習をやりたい、ここを強化したい、など思っていることがあればしっかりと自分の意見を伝えに行く。思っているだけでは環境は何も変わらないですね。自分で環境を作り出すためにも自分が置かれた状況で、「やるべきことをやっているのか？」といつも自分に言い聞かせています。それでもやるべきことをやってない時があったりするので自分はまだまだだなと感じます。座右の銘はたまに変わるのですが、今は「果報は寝て待て」です。やるべきことをやれば、いつか結果はついてくる、そう信じています。（2020年11月9日）

Topics

3名の選手が ドラフト指名から入団へ！

タイシンガーブランドン 大河
(内野手)

東京農業大学北海道オホーツク
埼玉西武ライオンズ 6位指名

沖縄・石川高時代は最速145キロを超える投手と内野手の二刀流で活躍。東京農業大学北海道オホーツクでは主に三塁手としてプレーした。11月16日に東京農業大学世田谷キャンパスで入団交渉に臨み、合意。「山川穂高選手のようなパワフルなバッターになりたい」と同郷の先輩を目標にするとコメントした。



斎藤 伸治 (投手)

東京情報大学
北海道日本ハムファイターズ 育成2位指名

高校時代は内野手で、東京情報大学在学中に投手に転向した。3年春から主力として活躍し、最速147キロの直球を軸に、スライダー、フォークの変化球を操る。日本ハム・高橋スカウトは、「ピッチャーの経験が浅く肩減りが少ない。可能性は十分に秘めている。上がってほしい」とコメントした。



中村 亮太 (投手)

東京農業大学北海道オホーツク
福岡ソフトバンクホークス 育成8位指名

伸びのある直球とスライダーが武器。2年時に優秀投手賞を受賞。3年時春の全国大会で151キロを計測した。元阪神監督中村勝広氏の親戚。11月19日に東京農業大学世田谷キャンパスで仮契約し、「大学では守ってもらう機会がなかったので、自分が投げている試合で周東選手に守ってもらうことを目標にしたい」とコメントした。



発刊にあたって



この度、学校法人東京農業大学よりニュース冊子「Harvest」を発刊する運びとなりました。

東京農業大学の創始者である榎本武揚先生の「冒険は最良の師である」という言葉は、未知なるものにひるむことなく立ち向かい突き進むことが、目標に到達する道であり、人としての成長にとって最良であることを意味しています。

「Harvest」は「収穫」を意味します。学校法人東京農業大学の8つの学校では、それぞれの児童・生徒・学生が学業や学外活動に一生懸命取り組み、日々成長を遂げています。「Harvest」はその真剣な彼らの表情と姿を「収穫」し、広く皆様にお伝えしてまいります。